

休日の学校部活動の段階的な地域移行に係るアンケート調査結果（地域団体）

1. 回答 36 / 54 (回答率 67%) 団体、個人

2. 学校部活動との連携について

- (1) 連携していきたい 8 団体、個人
(答志野球、TOBA EAST Jr バレー、鳥羽フェンシング、鳥羽 Jr レスリングクラブ、レスリング協会、剣道協会、ソフトテニス協会、スポ推)
- (2) 連携したいが難しい 14 団体、個人
- (3) 連携は考えていない 5 団体、個人

【部活動と連携したい取組】

- ・剣道：鳥羽東中、答志中合同 10名 指導員4名 平日4日 土日どちらか1日
謝金は未定、複数の指導者で分担予定
- ・剣道：答志中 指導者3名 教員複数名 週2, 3回
- ・剣道：答志中、鳥羽東中合同
- ・バレーボール：鳥羽東中 11名 指導者1名 教員1名 土曜日
- ・フェンシング：中学校及び高校 20名 指導者3名 週4回 1h1000円は安い
- ・レスリング：中学校 休日の週1回 数人の指導者で指導予定
- ・軟式野球：市内全中学校 現在11名 指導者4名 週1回 謝金1h1000円
数名の指導者で指導予定

3. 意見

休日部活動連携の課題

(1) 剣道協会

- ① 費用は受益者負担が望ましい。
- ② 部活動ガイドラインを守らせるなら、客観的に監督、指導する部門が必要で、それは教育委員会が担うべき。
- ③ 中体連との関り。情報もなく、引率計画など立てにくい。
- ④ 受益者負担となった場合、負担額の少ない競技しか選べないことが出てこないか心配。

【解決策】

- ① 現競技団体が担うのではなく、別に地域部活動を運営する団体「地域部活動運営

団体」を組織して、そこが競技団体に各競技の部活動を依頼する体制が望ましい。保険の一括加入や受益者負担の均等化を考えて、その方がいい。

- ② 指導者については何らかの資格を設けて可能な限り有資格者が指導に当たるべき。
- ③ 部員が競技団体の会員でない場合も考えられるので、会員以外の競技団体からの支出は厳しい。謝礼なども「地域部活動運営団体」から出すようにした方が良い。

(2) 答志剣道スポ少

- ① 生徒数の減少、部がない、防具の確保、指導者の指導できる時間の制約。
- ② 部活として平日の日中、教員に指導してもらい、週3回のスポ少の練習に夜間参加し、大会に参加していければいいと思う。

(3) バドミントン協会

競技として部活動を指導できる人材は少ない。以前、指導していたことがあるが継続的に指導し続けることは難しい。気持ちはあるが、責任、役割分担、地域や競技によっても違う。

(4) グラウンドゴルフ協会

数人単位であれば対応できるが、部活動となればそれなりの人員、指導者が必要となり、当団体では対応できない。

(5) 陸上協会

大会出場となると協会への登録費、大会参加費の徴収とそれにとまなう会計業務などボランティアの範囲を越える責任が伴う。コロナ禍で現在は会費の集金なしで月2回活動しているが、これ以上となるとコーチの負担が大きくなりすぎる。

(6) 鳥羽フェンシングクラブ

指導者確保に苦慮する。地方で働く場所等の確保が欲しい。⇒常に使える練習場所の確保及び指導者の確保が難しい。就職先への優遇制度が欲しい。

(7) TOBA EAST Jr (バレー) スポ少

顧問の先生で未経験者が多く、技術指導が難しい気がする。

(8) 軟式野球連盟

まだ具体的な検討に至っていない。

(9) 鳥羽第一野球スポ少

- ① 指導者の勤務の都合で不在となる場合がある。(意欲はあるが勤務優先となる) ガイドラインでの活動時間では少なすぎると感じる。(休養日にスポ少の練習に参加していることもある)
⇒ 指導者が仕事と休日の指導が両立できる場を市が斡旋できないか?
- ② 平日の活動は各学校の先生が担当し、休日はクラブチームとして市内全体から集まり指導者を中心に活動する。

(10) 答志野球スポ少

① 指導者の確保

現在、市内全中学校の希望者を対象に軟式野球を指導、支援しています。

指導者の確保の面に関しましては、現在の参加生徒数で何とか足りている状態ですが、参加数が増えるとスタッフ数をもっと必要になってくる。

現状スタッフは4名いるが、常時指導に当たっているのは1名。ボランティアでの指導。常時指導に当たる人には謝金は必要になると考える。

② 会費を一人月1,000円徴収している。(保険代、ボール代、球場使用料)

もし休日の部活を地域移行するのであれば、鳥羽市は離島もあるので交通費の無料化や施設使用料の無料化もしくは資金援助が必要。学校単位で考えると団体競技を行う人数が足りなくなってくる。鳥羽市全域で1団体で活動してほしいです。

③ 自活動に際しまして学校関係者がスタッフとして協力してくれているため連携は取れている。しかし、各校の練習内容が異なるため生徒の疲労度がしっかり把握できないのが現状です。子どもたちが好きなことを精一杯できる環境になってくれることを希望します。

(11) 鳥羽 Jr レスリングクラブ (スポ少)

① 指導者は5名いますがみんな働いている。放課後に指導できる人材確保も必要。

② 会費を徴収して活動している団体なので、会費が必要となる。鳥羽高校が会場となるので、鳥羽高校の許可が必要。

③ 今回は休日の移行調査ですが、平日も考えると指導者の確保はどの競技も困難。平日の活動であれば、放課後だけでなく夜間も含んでもらえると指導者の人材は確保できる。

④ 活動の経費は発生する。受益者負担は必須だが、一定の支援は必要。支援については行政や国からの補助金、民間団体の助成金の活用など様々な方法を検討してもらいたい。

(12) サッカー協会

① 学校の部活の時間に活動可能な指導者がいない。(働いている、小学生を指導している、平日が特に困難) ⇒ 指導者を公募する。

② 伊勢サッカー協会と合併すれば指導者を確保できる可能性あり。クラブチーム(ISE YAMATO、FC ISE-SHIMA)への派遣依頼(有償)、小学校教員の活用。

(13) サッカースポ少

選手の減少に伴い指導者の数も減少し、指導者確保が困難。

⇒ 小中一貫のチームを作る。総合型地域スポーツクラブに移行する。

(14) 鳥武館柔道（スポ少）

当指導者は全てボランティアで指導しており、大会の引率についても自費で賄っている方が多い。活動経費やケガ、指導者の賠償保険等についても育成会(指導者も加入)の会費で賄っている。このような中で、学校部活動を加えるとなった場合、学校側の指導者に対する補償、大会引率、ケガや賠償保険等に対する対応等、学校側の考え方が見えていない中で連携を考えていくことは非常に難しい。

⇒ 現団活動内に組み入れて練習をすることを部活動として認めていただければ、連携は可能に近づくと思われるが、休日に部活をするとなると指導者の確保をはじめ、経費、ケガ、指導者の賠償保険などを学校で負担してもらうことが条件として出てくる。このことを考えていくと、学校側でまず専門指導員を採用し、活動や補償の体制を整えていった方が良い。

(15) スポーツ推進委員

指導者としての専門的な資質を持った人の確保。指導に掛かる経費の負担。学校施設を使用できるのか？指導者がガイドラインに沿った指導をできるのか？生徒のケガ等の責任をだれが負うのか？

(16) スポーツ推進委員

指導者の確保、経費の問題、持続性⇒企業からの支援、企業への税控除等

(17) スポ推

外部指導者と学校がどのように話し合っ指導の生かすのか？話し合う場、時間、謝金、休日のケガ、事故の対応、詳しい報告、保護者への説明などを誰がするのか？きっとスタートすると色々な課題が出てくると思うので、その窓口をどうするのか。

(18) スポーツ推進委員

指導者の絶対数が少ないと予想されるため、確保が難しい。もし確保できたとしても、その方の過重負担になる可能性がある。学校とも連携をどのように進めていくかも具体的に詰めていかなければならない。

(19) スポーツ推進委員

中学校統合が進む中、将来的にどのような部活動が存在するのか見通しが立たない状態では、何とも答えようがありません。ただ、現状として、高齢の指導者では体力的に厳しく、また、指導法も古臭いものであっては教育的意義に欠けますが、、、若い人で経験者で時間の都合のつく人となるとかなり限定的になります。

(20) スポーツ推進委員

初期の段階として、平日1日、休日1日を目指したいが、1クラブ2～3人の指導者が果たして確保できるか？できるとして、教師とどのように分担するのか？確かに教師としては平日1日、そして週末の2日間が部活指導を外部に任せられるのは魅力的ではあるが、外部指導者との連携も簡単なことではない。

⇒ まずは土曜日か日曜日のいずれかの日から始めて、うまくいけば平日1日へと進めばよい。また、子どもたちの負担も考えると、月曜日は完全に休部とし、火～金のうち1日を外部に担当してもらえれば、教師にとっても、土日月プラス1日となりかなりの負担減となる。

4. その他

(1) 総合型地域スポーツクラブ

教員と外部の指導者との関係性が大切になってくると思われます。しっかりした細かい規約が必要になってくるのではないのでしょうか。

(2) バドミントン協会

責任を伴うことになるため、地域で実施するにしても組織を作るなど、社会スポーツをどうするかも含めて、今後の鳥羽のスポーツ振興を考えて行かなければならないと思う。

(3) ソフトテニス協会

協会で指導者育成講座を開き、指導者を育てていかないと、地域への移行は難しいと思います。協会へ入っていない人へのアプローチも必要。鳥羽市も認定制度を作ってもいいと思います。

(4) 剣道協会

- ① 活動の財源、指導者の確保、組織体制（責任分担）の諸問題の解決が可能であれば「休日の学校部活動」を「地域部活動」として体制を作ることは可能ではあるが、学校部活動(平日)と地域部活動（休日のみ）と二つ体制で、方針・目的が異なる状態が生じると本来の「部活動」で学ぶ意味も薄れてしまう（生徒が混乱する）可能性があると思われる。そもそも、「教員の時短目的」の考え方の地域移行では、生徒が置き去りにされている感じしかしない。部活動をどのようにしたいのか、根本的に考えて再構築するような新たな部活を作るようなイメージが必要。それに伴い、「楽しむためにやる」のか、「勝つため」にやるのかなど、個々の目的・目標に応じて細やかな対応ができるようにも考えてほしい。
- ② 複数選択の可否なども要検討。移行期間は3年になっているが、早期移行ができるなら平日の部活移行も早めに行えることが望ましい。
- ③ やれる所からやれる競技からすればよいと思う。できない競技は他地区のある所への参加を考えればよい。全ての種目を地域内でする必要はない。保護者や地域がやらせたいスポーツや活動があれば地域の人がやるのが望ましいと思います。

(5) TOBA EAST Jr (バレー)スポ少

地域に移行する場合、指導者の職業によっては土日に休みが取れない方もいる。土日ばかりを検討するのではなく、平日の活動も視野に入れ検討しなければならない。

(6) 極真空手 (スポ少)

- ① 仕事をしているので、休日だけ毎週となると無理だと思う。課題だらけ。
- ② 指導者の指導する意欲が最も必要。特殊なスポーツであるため専門的な知識を持ったものが少ない。
- ③ 鳥羽で就職先が少ない。
- ④ 練習場所の確保も難しい、、現状では練習場所の経費も掛かることから、経費捻出を保護者に求めている。道具および大会参加経費の負担も大きい。

(7) 軟式野球連盟

地域移行については賛同するが、行政主導でリーダーシップを発揮してやっていただきたい。

(8) 鳥羽第一野球スポ少

- ① 現在、軟式野球では部活動とは別にスポ少を卒団した生徒を中心にクラブチームを発足して活動しています。通常の部活動では物足りなさを感じる生徒もいると思います。小学生時に一緒にやっていたメンバーがそのまま集まって活動することでより一層、大会での好成績や野球人口の確保が期待できます。
- ② 部活動の地域移行については賛成です。最終的にはクラブチーム化した活動が理想だと考えますが、指導者の確保などたくさんの課題がありますので、私たちスポ少側もできる限りの協力はしたいと思っています。

(9) レスリング協会

- ① 部活動の地域移行は、単に専門的な技術を教えるだけでなく、トレーニング法、ケガへの対応等これまで以上に地域団体(指導者)の自覚が必要。指導者は教育の一環であるという意識をもって、活動していく必要がある。
- ② 教員が指導できるようになること(兼業兼職か?)は大変いいことだと思う。この場合も教員=有資格者ではないため、スポーツ指導における資格取得も必要だと考えます。
- ③ 生徒へのケガの保険だけでなく、指導者の賠償保険についても、学校部活動での事例も参考にして、協議が必要だと思います。特にボランティア指導ではなく、地域部活動に位置づけられ、有償で指導する場合はこうしたリスクも想定する必要がある。
- ④ 地域部活動として大会に参加した場合の旅費は必須であるが、どの程度まで部活動なのかを明確にしておく必要がある。また、用具購入費も必要になってくるが、保護者や学校区の地域の方から支援を受けられるように環境を整えていった方がいい。市の支援体制が厳しいと受益者負担が大きくなり、経済的な理由で部活動をしない生徒が出てくるように思う。

(10) 鳥羽 Jr レスリングクラブ (スポ少)

- ① まずは休日だけであるが、平日のことも考えると夜間も含めて考えていかないと指導者確保は困難。部活動であることを忘れず、部活動ガイドラインに沿った活動ができる団体が、地域部活動に位置付けられるべきであると思う。指導者は「それでは強化ができない」など様々な意見はあると思うが、部活動の意味をしっかりと地域団体(指導者)のみなさんに理解をしていただく必要もあると思う。
⇒ 最低1年に1回は生徒や保護者にアンケートを実施する。(チェック機能が必要)
- ② 指導者への謝金は少額でもあった方がいい。謝金をいただくことで指導者の意識も変わる。

(11) サッカー

鳥羽市は小学校1、中学校1、高専1のチーム数で、小学校以外は教員が指導しています。小学校の指導者も有資格者2名のギリギリの体制であり、中学校と掛け持ちでできる目途は立たない。

(12) サッカースポ少

サッカーに関しては年間を通したリーグ戦化が進んでおり、少年の部と中学校の日程調整が必要。個人的には時間の合う限り部活動のお手伝いをさせてもらえればと思っています。

(13) 鳥武館柔道 (スポ少)

学校部活動の地域移行についての考え方は、学校の先生方の負担軽減が目的であったと思われるが、地域団の活動においても指導者は自分の仕事もしながら、家庭より団活動を優先して子どもたちの指導を行っている。学校での部活動が先生方に負担がかかるから地域活動へ移行させたらよいという考え方ではなく、いろんなアイデアを参考にして、学校側で考えていくことを検討してみてはいかが？

(14) スポーツ推進委員

平日の部活動と休日の指導者の連携が必要。生徒の立場から地域への移行をもっと考える必要がある。

(15) スポーツ推進委員

まずは指導者の確保が一番の課題だと思う。現状では難しいのでは？

(16) スポーツ推進委員

先生の負担を減らすため、地域移行は必要なことだと思いますが、指導者の確保が難しいと思います。指導者さえ確保できれば、後の細かいことはすり合わせて進めていけると思います。

(17) スポーツ推進委員

- ① 小中学校の教員の皆さんが、今後も主に活動していただくのが現実的と今は思っています。先生方の働き方改革を進めていく中で、他の指導者とも連携していただけるかどうか、鳥羽市なりの運動と文化クラブを続けられるように進められるか？
- ② 教員の残業問題もまともな状態に早く解決し、先生方の働き方改革や子どもたちのスポーツ、文化活動の在り方も国が先を見て考えることが大切だと思う。

(18) スポーツ推進委員

関わる方、全てが無理のないようにお願いしたい(学校、指導者、生徒、保護者)

(19) スポーツ推進委員

鳥羽市の場合、離島と本土では状況が違う。一律に進めていくことは難しいと思う。できるところから、出来る形と考え、進めていくのが現実的ではないか？

(20) スポーツ推進委員

課題が大きすぎて頭が回りません。とりあえず休日から始めてということなのでしょうが、どこが(どの団体が)どのような受け皿になって運営するにしても、相当の準備がいる。相手は人間ですから、しかも多感な時期の一人一人の個を教育的観点で見守ることができるのか？ただ、技術を教えればよいということではないはず。それに責任重大です。ケガ等の対応で保険のことが書いてありませんが、大事なのは応急処置であり、休日に病院は開いていません。そのことを第一義にして検討していただきたく思います。

(21) スポーツ推進委員

競技によっても指導者が確保できる、できないが生じるだろう。バランスをどう保つか？週末の勤務形態はどうなるのか？(公式戦だと学校管理下扱いはどこまでできるのか？) 全員部活制はもうできない。 地域にも何らかの受け皿の組織が必要になってくるのではないか。

キーワード

1. 指導者の人材確保が難しい。(指導者資格はどうする？ 教育的観点をもってできるか？部活動ガイドライン)
2. 責任の所在はどこ？
3. 生徒の立場からもっと議論すべき。
4. 保険、会費、会計事務業務負担
5. 休日だけでなく、平日もセットで考えて⇔休日のできるところから始めてうまくいけば平日へと進めばいい。
6. 平日は夜間も含めて考えれば、人材確保できる。
7. 費用は？ 補助は？
8. 「楽しむ」部活動なのか？ 「勝利」を目指す活動なのか？